柴北川プロジェクト通信　２３号

――― 平成２４年開花時調査とグループヒアリング ――― 平成２４年４月７日(土)～８日(日)

１．はじめに（いざ桜狩りへ）

桜狩りという言葉は、花見という言葉があるためか紅葉狩りほど一般には聞かないように思われます。しかし昔から使われていた言葉のようで、例えば、芭蕉の句には**「桜狩り　きどくや日々に　五里六里」**というものがあります。「山桜が咲いているのを追いかけていると、奇特なことに一日の内に５里も６里も歩きまわってしまった」というようなことのようですが、共助研メンバーによる、４月７（土）～８日（日）の第３回目となる「長谷地区（柴北川流域）の開花時調査」は、この芭蕉の句と同じように「奇特なこと」とも言えるかも知れません。桜を追いかけての夢中な時間を過ごさせて頂きました。今風に言えば、「山桜ハンターズ顛末」というところです。

また、２日目には、長谷地区の方々から、「年配世帯主グループ」「奥様グループ」「子育てグループ」に分かれての、地域の課題や将来像に関するご意見を聴かせて頂いた「グループヒアリング」を行い、この地域の課題について認識を新たに致しました。

２．長谷到着まで（途中でも山桜の群生エリアに驚き）

平成 24 年の４月７日（土）は、気温はやや低かったものの快晴でかつ空気がとても澄んでいました。そのおかげで、福岡から大分自動車道、国道 10 号と走った長谷地区までの間、周辺の景色がいつも以上に良く見えました（写真―１参照）。

写真―１　国道３２６号バス停「山奥」から見えた山桜群

植物の専門家や山桜への関心の高い方にとっては周知のことかも知れませんが、福岡市近郊の山々では、比較的山桜を見ることができます。しかし、大分自動車道から観る限りにおいては、日田市を過ぎた辺りからは、中々発見することができません。この空白域は、別府湾が見えてくる地点くらいまで続きます。別府湾が見える地点まで来ると、すなわち九州の東側までたどり着けば、急に山々の斜面に山桜を多く目にすることができます。

特に、大分 IC.を過ぎた辺りからは、大分市市街部背面の山々には、点々というよりは、まるで植林したかのような山桜の群生を見ることができます。地図で確認した限りにおいては、大分大学の裏山辺り、本宮山や霊山の北東斜面、大分川流域から大野側流域へ入った辺りがその場所ではと推測されます。

大分米良 IC.で降りて国道 10 号と走ると、山桜の群生を道路沿いの左右の山々に間近に見ることができます。昼食に立ち寄ったバス亭「山奥」傍にあるうどん屋さん（国道 326 号沿い）から見た景色が、既に示した写真―１です。なお、長谷地区への入り口となる長谷トンネルの真上にある一本桜の満開も、１年前と同じように確認することができました（写真―２）。

開花時調査に初めて参加された「金尾会員」と「西尾会員」のお二人は、長谷地区へ到着する前までに、このエリア一帯の山桜の見事さにしきりに感心されていました。

写真―２　長谷地区入口のトンネル真上の一本桜と山桜ハンターズ

３．長谷到着後回遊（山桜を堪能）

福岡からは、森脇会員、濱田会員、金尾会員、西尾会員、木寺と連れ合いの６名が参加していましたが、松巌寺橋で、波木事務局長、玉田会員、波多野会員と合流しました。松巌寺橋やその袂の松巌寺さくら公園からは、おなじみの山桜群を見ることができました。

山桜群の中でも一番麓近くにある大きな一群が目立っていましたが（写真―３）、これらが私たちの調査ずみ（マーキング、位置把握、幹回り、高さ等）のものかが判明せず、時間があれば山の中へ入り確認してみようと話し合いました。

松巌寺さくら公園は、渡邊さんらの「柴北川を愛する会」や豊後大野土木事務所の方々の協働で花壇整備や飛び石設置を行い（写真―４）、立派なポケットパークになっています。飛び石渡りに挑戦してみましたが、最後の一歩は距離があり、対岸までは渡れませんでした。いずれ調整するとのことでした。

合流後、全員で渡邊さんらが既に焼いていた炭の「炭出し作業」を行っている現場（渡邊さん宅裏山）を訪ねました。炭出し作業とともに竹の子の収穫もされていましたので、竹林整備後の竹の子も見ることができました。

大塚会長を始め、皆様方へご挨拶した後、我々だけでお目当ての山桜群を、栗ヶ畑～奥の院（通称）～落合～成瀬谷～松巌寺裏林道～展望台と探訪させて頂きました。今年も奥の院の山桜群は見事でした（写真―５）。落合の鉄塔下の巨大桜も満開でした。成瀬谷は今年もやや早すぎたようでしたが、展望台からはいつものように長谷地区の全貌を見ることができました。

奥の院では、そこにお住まいになっておられる方とご挨拶もできました。また、昨年も報告させて頂いた桜屋敷の女性主（柴北川プロジェクト通信 16 号参照）とも話をすることができ、庭先までおじゃまをさせて頂きました。

写真―３　おなじみの松巌寺裏の山桜群（2012）

写真―４　新たに設置された飛び石

写真―５　今年も見事だった奥の院（通称）

４．グループヒアリング（地域の課題を再認識）

グループヒアリングの目的は、柴北川プロジェクトを開始してか３年の歳月が過ぎたことから、自分達の活動の成果や課題の見直しも含め、長谷地区の将来に関する課題について再考しようという目的で、波木事務局長のリードの下で行いました。

旧長谷小学校体育官を会場として、10 時 30 分より「年配世帯主グループ」「奥様グループ」「子育てグループ」に分かれて意見・感想を聴かせて頂きました。

事前に配布させて頂いていた「アンケート」に沿う形での進行を行いました。この詳しい内容は、プロジェクト通信とは別途に報告しておりますが、以下のような感想を持ちました。

① 年配の方々は、若者の地区外への流出等での地域の衰退傾向に大きな危機感を持っておられ、その原因としては、働く場所の不足、子供の教育の場の縮小が大きいと考えておられる。
② 長谷地区は、昔より地域の纏まりが良い地区であり、何かをしなければとの意識は大変高い。
③ よそ者である「共助研」と「柴北川を愛する会」との協働作業については、地域外からの刺激があるということで、一定の評価をして頂いている。
④ 子育てグループの多くの皆さんは、この長谷地区が子供を育てていくには、大変良い環境であると思っておられる。
⑤ 地域外との交流促進は、地区の衰退傾向の抜本的な解決にはならないかも知れないが、衰退傾向の歯止めには大変有効と考えておられる。
⑥ 共助研には、この地区へ貢献できそうなことが未だ多く残されている。

特に、大分市からそう遠くは離れていないこの地区でも、高齢化、若者の流出等の全国的に起きている問題が顕著になってきているということはショックで、認識を新たにさせられました。

写真―６　グループヒアリングの様子

５．松巌寺裏山桜群の特定（桜狩りのつづき）

２日目の帰り際に時間が少しできましたので、松巌寺裏の目立った一群が、調査ずみかどうかの確認をすることになりました。

目視で見当を付けた後、車を降りて林道を歩き、斜面を登り山の中へ入って行きました。山の中へ入ると木々が邪魔をして視界が開けず、中々見つかりません。しかし、足元を見ると、桜の花びらが散乱している場所がありました。そこには、幹回りも大きく、すっと立ち上がっている５～６本程度の山桜の大木があり、見上げると満開のものやこれからというものがあることが分かりました。マーキングが無い一群でしたので、未調査のものと判明致しました（写真―７）。

これこそが本当の桜狩りではと勝手に思いました。

写真―７　今回新たに発見した松巌寺裏の山桜の大木群

６．さいごに（日本一の里山・山桜群へお別れ）

さいごに、渡邊さんより「この地域の加工所の一つ」へ案内して頂きました。この加工所は、以前、農産物の加工食品生産のために建設されたものの、最近では利用されなくなっているとのことでしたが、この度、再使用できる環境が整ったとのことでした。竹の子の水煮、こんにゃくづくり、饅頭づくり等、地域特産品製造の夢が広がりました。

また、帰り道に、あの長谷トンネル真上の一本桜のすぐ近くまで案内してもらい（写真―８）、私達も、この桜がソメイヨシノではなく山桜であることを確認しました。会員のどなたかが「山桜に酔ってしまった」と言われていましたが、まさにそのような体験の２日間でした。

山桜の名所は、吉野山を筆頭に日本には数々ありますが、長谷の山桜群は、「日本一の里山・山桜群」と呼んでも良いのではと思いました。

何故、このエリアには山桜群が多いかの疑問は、いずれどなたかが解説して頂けるのではと思いますが、椎茸用のホダギとしての活用が盛んであった、薪炭活用が盛んであった、伐採の際に山桜を意識して残した、地質・地形が山桜生育へ適している、種子を運ぶ鳥類・哺乳類が多い[1)]、比較的スギ・ヒノキの植林が小規模であった等々の理由が考えられます。

いずれにしても、この地域の過去・現在の生活と結びついているような気がしてなりません。

楽しくも有意義な２日間を過ごさせて頂きました。

地域の皆様方、共助研メンバーそしてこの地区の自然へ感謝です。

（文責：木寺）

写真―８　長谷トンネル真上の山桜の正体（右上）とハンターズ

参考文献

１）小池伸介：緑化植物　ど・こ・ま・で・き・わ・め・る・　ヤマザクラ（ネット検索より）